

今月第7号は九州部熊本五福スクラブの亀浦正行ワイズにご登壇いただきます。



「MULTIPLIER EFFECT;乗数効果」

九州部熊本五福クラブ
亀浦 正行ワイズ

$1/(1-C1)$;一定の条件下において有効需要を増加させたときに、増加させた額より大きく国民所得が拡大する現象……だそうです。

マクロ経済学で、カーンが提唱し、ケインズが発展させた理論式とあります。

設計業務の合間、アイデアが煮詰まった時に、買い込んで積読してある書物に手を伸ばし、目に留まりました。

今日この頃、鄙びた理論式など通用しないのではないかとと思われるアグレッシブな世界の状況ではありますが、興味深い式です。

要は、所得として入ったお金の5割を消費に使えば、市場の総所得は2倍になり、9割使えば10倍になるということらしい。

さて、私たちのワイズメンズクラブへの入り口論、運営論は、多くの先輩方が詳細に分析され、そのビジョンとともに意義と喜びが示されています。

目的をもって入会された人、信頼する友人に騙されて(失礼!)仲間になられた方、社会奉仕活動に従事する喜びを求めて入会された方、それぞれ、ご縁でここに(クラブ・部・区)在ります。新しいお仲間となられた、お一人おひとりの立場を因数分解して考えてみたいと思います。

メンバーの個人としての因数: 家族・健康・仕事・教育・経営・誕生・友人・目的・感動・思想・課題・活動・政治・宗教・学習 etc

これらたくさんの因数が掛け算されて、それぞれの人生の今があります。挑戦していること、これから挑戦しなければならない事柄、解決しなければならない課題、明確な解決は出来ませんが逃れずに歩を進めなければならないこと、感動を伝えたいことなどの因数を持って、私たちはワイズメンズクラブで知りあうことになりました。

新入会メンバーとの会話の中で、これらの因数と同じもの、近いものの薫が二人の間に漂った時に、まずは一対一で対話と心のやり取りが始まります。自分が持っている因数を深く感じ取っていただいたときに相互融和が開始されることでしょう。彼が抱えている課題に寄り添い、挑

戦していることに感情移入し、私が、あなたとともに歩かせて欲しいと意思表示できれば一歩の始まりです。

奉仕活動の組織運営の原点の一つはここに在ると考えています。

私たちワイズメンが持っている所得(国際憲法・区組織・部組織・クラブ組織・人材など)を新入メンバーを通して社会に還元することで、奉仕社会の総所得は増えていくのかもしれませんが。

私たちワイズ活動のゴールは、国際憲法にあるように「全人類の為、よりよき世界を築くべく尽力するものである」なのです。

私たちは組織運営の大切さに加えて、その先のゴールを見つめ、歩を進める集団だと思いません。

ちょっと視点を替えます。熊本五福幼稚園は熊本市からその経営を熊本 YMCA に平成30年の3月に移譲されました。

日本各地の公営の幼稚園経営の事情はどこも同じ課題を抱えています。幼稚園のみならず保育園、子供交流センター、図書館に至るまで、公営の組織が民間に指定管理で経営委託したり移譲したりしています。ここはワイズメンズクラブとしても、情報収集し、各地の YMCA が170余年、培ってきたノウハウという所得を社会に還元させるお手伝いをするチャンスだと思います。YMCA のブランチが増えるということはワイズメンズクラブを作る機会が増えます。大いに乗数効果が期待できます。

熊本五福クラブでは、公営では出来づらかったであろう、熊本五福幼稚園の休日園庭開放イベントにリーダーシップを取り、園児保護者のみならず、地域自治会、老人会、民間地域おこし活動組織の方々との交流をはかります。

地域の課題を学び、ともに働いて参りたいと考えています。私たちワイズが、「地域の皆様から学ばせてもらう」という姿勢を持ち、各組織の皆様と手を繋いで「よりよき世界」を目指すという浪漫なのです。

(熊本五福ワイズメンズクラブ設立準備委員長、2016-17年度西日本区書記、元九州部部长)

次月2月号は中西部和田早苗ワイズ、西中国部金子敏郎ワイズにバトンタッチいたします。

特集

熊本五福ワイズメンズクラブの働き

設立準備委員長 亀浦正行



2018年5月19日 設立総会



2018年9月1日チャーターナイト



2018年11月23日 園庭開放イベント

て遊べる公園が少ないとお話を聞きつけ、園庭開放イベントを企画開催しました。

まだまだ稽古が足りませんので、おぼつかないことだらけですが、力を合わせて働くことで、メンバー一人ひとりが、そのフィジカルを強めていきたいと思えます。

メンバーの一人ひとりに飛び込んでくる球を、メンバーが一人でも二人でもお互いに手を握り、いずれは、クラブメンバー全員が、その手を力を込めて掴み合いたいと思っています。

感謝

私はワイズメンズクラブに入会間もない頃、熊本ジェーンズクラブの皆様が、クラブ運営について、熱く語らっておられたのを鮮明に覚えています。

中でも菅正康ワイズが、言われた言葉が強く耳に残っています。

「クラブの存在そのものが、社会に必要とされることが必要で大事なことだろうと思うよ」 以後の菅ワイズの節目ふしめの発言を耳にすると、常にこの想いを感じました。

野球でいうと、打者が打った球は、どこに飛んでくるかわからない。守備するものは、ルーチンのエリアで構えて、どちらへも動けるようにしているが、球は同じところには飛んでこない。目の前でイレギュラーすることも希では無い。だからこそ、守備者は常に、予想し、考え、自らの体を締め抜く稽古と訓練で、体が自然と反応するように準備しないとならない。

20年ほど前にも、スペシャルオリンピックスの活動を熊本の各クラブが、お手伝いをさせていただきましたが、この経験を通して、この運動が日本全国に広がっていく様を学ばせていただきました。

社会には必要とされるのに、日の当たらない状況が数々あります。そのために、私たちワイズメンクラブは、クラブ、部、区、地域、国際の組織運営を通して稽古を積んでいます。その守備力を、地域で、国際で必要とされる球(日の当たらない数々の問題)が飛んできたなら、素早い対応力を発揮して働いて参りたいものです。熊本五福クラブは、そのような働きを、小さくても、出来るクラブでありたいと思っています。

昨年の11月23日には、幼稚園の周りに安心し